

クロスワードクイズに挑戦しよう!

マス目にキーワードを埋めていき、A~Gをつなぐと答えになります。
 キーワードはすべて漢字ですが、マス目には「ひらがな」が入ります。
 全てのキーワードを1回ずつ使います。

『熱田』

名古屋城下町と熱田のまちは本町通で結ばれています。
 熱田神宮の門前町、湊町、東海道の宿場町など様々な性格をあわせ持つまちとして、名古屋城下町とは異なる独自の歴史を重ね、名古屋城下町とともに現在の名古屋の基盤となった地域です。

キーワード

- | | | | | |
|---------|--------|--------|-------|--------|
| ● 団会 | ● 清須越 | ● 大木戸 | ● 広小路 | ● 芝居小屋 |
| ● ときのかね | ● 碁盤割 | ● 東照宮祭 | ● 伝馬町 | ● 徳川宗春 |
| ● 大須観音 | ● 本町御門 | ● 明倫堂 | ● 厩台 | |
| ● 享元絵巻 | ● 札の辻 | ● 火の見櫓 | ● 山車 | |

熱田にはこんなところがあります。



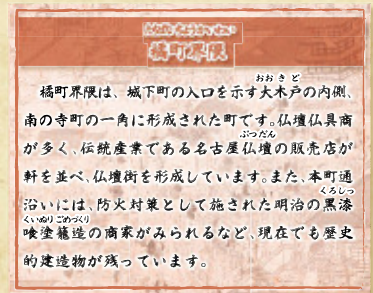
F おおきと 大木戸

本町通を南下した橋町にありました。城下の南端とされており、城下入口の警備にあたることも、城下と郡村の境界としていました。同様に、城下の東側は赤塚町、西側は轉屋町に大木戸が設けられていました。大木戸以外にも、町中の主要な部分には木戸が建てられていました。



E しばいごや 芝居小屋

橋をかけた芝居小屋が多く描かれています。4本柱の檼を建て、中では太鼓を叩いている小屋が芝居小屋です。



名古屋では、地域の歴史的・文化的な景観を特徴づけている、一定水準以上の建造物を「認定地域建造物資産」として認定しています。橋町界隈にある有限会社箱崎紙店や合名会社美濃佐商店、めん処天満屋も認定されています。



D おおすかんのん 大須観音

大須観音は、北野山眞福寺安生院が正式な名称です。広い境内には、芝居小屋や見世物小屋が建ち並び、大須界隈は名古屋一の歓楽街でした。

徳川宗春は、享保15年(1730)に7代藩主となりました。当時、8代将軍徳川吉宗は、質素倹約を旨とする享保の改革を推し進めていましたが、宗春は過度の倹約はかえって庶民を苦しめると考え、奥っ向から対立しました。前藩主継友時代に、節約のために簡略化されていた東照宮祭などの祭を、派手で華やかにこなうように命じました。寺院の境内には芝居小屋を次々と増設し、武士の芝居見物に許しました。宗春自身も、率先して芝居見物に出かけていました。さらに、それまで幕府によってしか認められていなかった遊藝を公許し、西小路・富士見原・葛町の3か所を認めました。

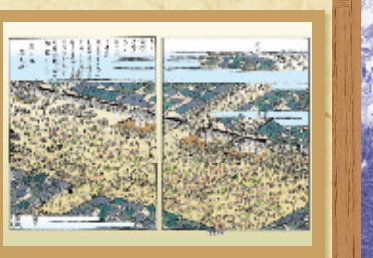


B わかみややまんしゃ 若宮八幡社

若宮八幡社は、名古屋に城下町が形成される以前から三の丸の地に鎮座していましたが、名古屋城築城に際して、現在の位置に移されました。寺社の境内には、芝居小屋や見世物小屋が建ち並び、寺社に参詣する際に、娯楽も楽しみました。



芝居と遊藝が人気を集めるとともに、様々な商売が名古屋で盛んになりました。いろいろな食べ物が売られるようになったのもこの時期であり、本町通にも食料品店が建ち並びました。



A ひろこうじ 広小路

万治3年(1660)に大きな火事があり、碁盤割の町はほとんど燃えました。その騒動から火が広がるのを防ぐために、堀切筋という通りを拡大しました。道路を広くしたために、堀切筋は「広小路」とよばれ、店や厩台が並び、庶民の楽しみ場として賑いました。また、当時の広小路には用水があり、橋がかかっていました。



上(西)から下(東)に通っているのが広小路であり、享元絵巻は広小路と本町通が交差するところから南側が描かれています。広小路から本町通へ向かう橋のたもとには、広小路を通る人々を呼び込むために、芝居の看板を立てられています。

『享元絵巻』の世界を歩いてみませんか?

7代藩主徳川宗春の時代の、城下のメインストリートであった本町通を中心として、その周辺の賑わいを絵巻で表現したものです。
 縦56.5cm、横3m72cmの絵巻で、本町通の入り通りや通り沿いにあつたいくつかの名所が描かれています。

正式な名称はつけられていませんが、享保年間(1716-36)から元文年間(1736-41)にかけての景観がみられることから、『享元絵巻』と呼ばれています。

右から左へ進行する巻物形式で、絵巻の右端には春の梅が、左端には色付いた紅葉が描かれ、一枚の絵巻で春から秋までの季節の移り変わりが表現されています。

『享元絵巻』から、当時の様子を想像しながら歩いてみてください。

